

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-331094

(P2005-331094A)

(43) 公開日 平成17年12月2日(2005.12.2)

(51) Int. Cl.⁷

F 1 6 L 59/06

F 1 6 L 59/153

F 1 6 L 59/22

F I

F 1 6 L 59/06

F 1 6 L 59/153

F 1 6 L 59/22

テーマコード(参考)

3H036

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2004-180328 (P2004-180328)

(22) 出願日 平成16年5月20日(2004.5.20)

(71) 出願人 503230678

児玉 護

岡山上房郡北房町宮地483

(72) 発明者 児玉 護

岡山上房郡北房町宮地483

Fターム(参考) 3H036 AA05 AB33

(54) 【発明の名称】 拡管式真空断熱継手

(57) 【要約】 (修正有)

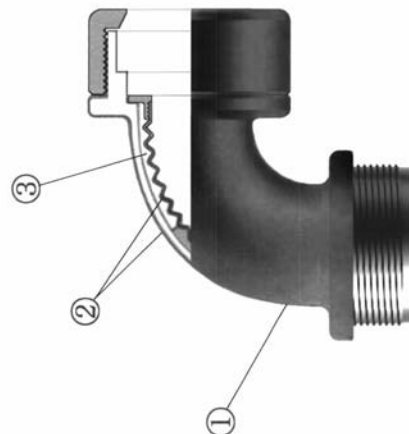
【課題】 継手内部を二重構造とし、その内部を真空にする事により、高い断熱性を持たせると共に、従来の拡管式継手と同様の、配管工事を可能にする事が出来、また、従来の拡管式継手による配管の一部を拡管式真空断熱継手と交換可能な拡管式真空断熱継手を提供する。

【解決手段】 拡管式継手の内部を二重構造2として、その内部3を、真空にする事により、断熱性を持たせた。

【選択図】 図1

図面代用写真(カラー)

1
☒



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

拡管式継手を二重構造 2 とし、その内側に真空断熱部 3、をもうけ、断熱性を高めると共に、従来の拡管式薄肉管との接続を可能にした、真空断熱継手。

【発明の詳細な説明】

【図面の簡単な説明】

【図 1】は、拡管式真空断熱継ぎ手の断面を示す。 1 拡管式真空断熱継手本体

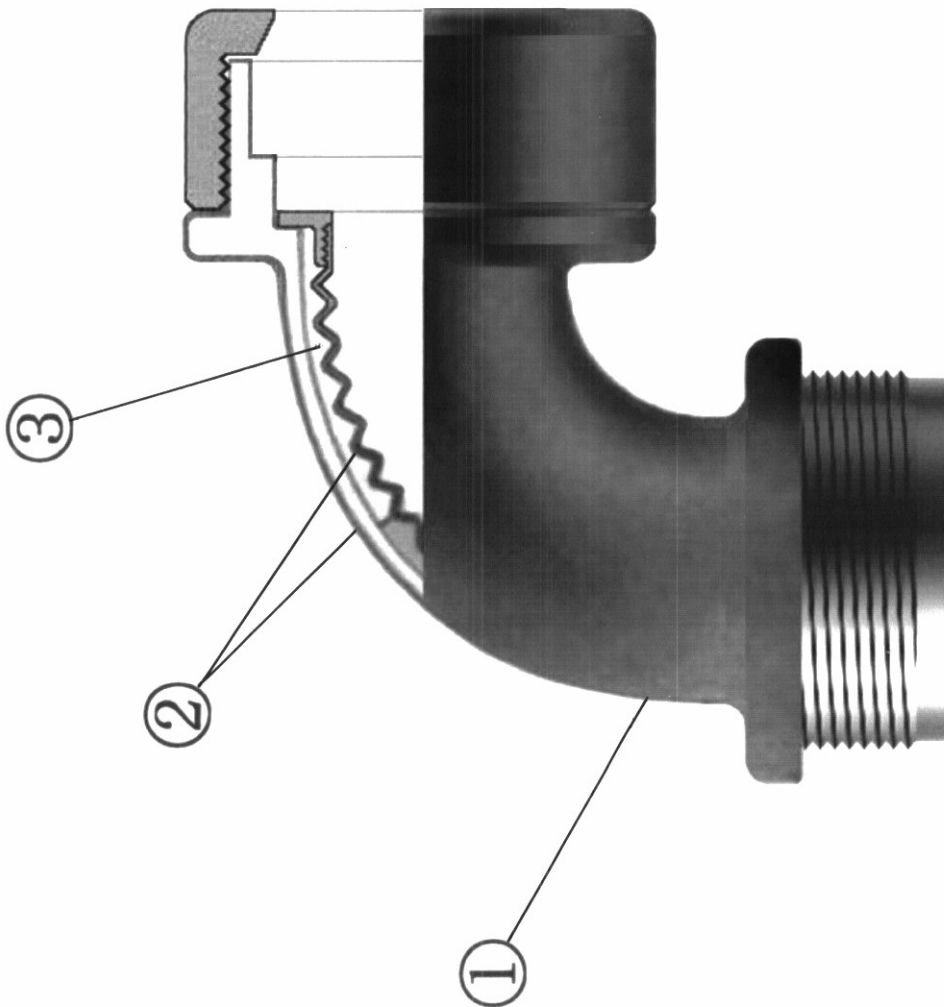
2 拡管式真空断熱継手の二重構造部 3 真空断熱部

【図 2】は、 1 拡管式真空断熱継手に、 4 拡管式真空断熱管を、取り付けた状態を示す断面図 5 継部の拡大図〔発明の詳細な説明〕（発明の属する技術分野） 10
配管技術（従来の技術） 真空の断熱効果は周知の事実であり

り、真空断熱継手を使用すると、かなりの省エネ効果が期待できますが、従来の配管に、直接取り付けるには、やや難があります。（発明が解決しようとする課題）真空断熱継手に、従来の薄肉管の使用を可能にすることで、真空断熱継手による配管工事と断熱工事の、簡素化を図る事が目的です。（課題を解決するための手段）従来の拡管式継手と同じ形状の継手を、二重構造 2 とし、二重構造の内部を真空 3 にする事で、断熱性を持たせつつ、支障なく、従来の拡管式薄肉管の取り付けを、可能にしたものです。（発明の実施の形態及び実施例）従来の拡管式継手による配管工事と同じ手法での、配管工事が可能であり、また従来の拡管式継手による配管の一部を、拡管式真空断熱継手 1 と、置き換える事も可能です。（発明の効果）本件の拡管式真空断熱継手 1 は、従来の拡管式薄肉管に取り付け可能であり、これにより真空断熱継手及び、真空断熱管による、配管工事が容易になり、経済的です。また、保温材による断熱工事が一切不要になり、真空の断熱効果により、高い省エネ効果を実現します。 20

【 図 1 】

図面代用写真(カラー)



【図 2】

図面代用写真(カラー)

2
☒

